

編集後記

昨年の創刊号に続いて、今年も「矢作川研究 No.2」を発刊することができ、一同ホッとしているところです。

大変お忙しいなか執筆から校正まで熱心にご努力いただきました皆様にはまずもって御礼申し上げます。

今回の報告は、当研究所の平成8年度の調査研究を中心に矢作川環境について様々な分野の報告を纏めてあります。増刊号と本誌にて矢作川と当研究所の概要を少しでもご理解頂けたら幸いに思います。

最近、河川に関する問題の中で流域という概念が取り上げられています。河川を学ぶにつれ、河川には流域の自然環境の総合的な結末が表れるという気がします。従って、河川に表れる変化の原因を解明するには流域全体に自然科学的・社会科学的な目を向けなければなりません。これは気が遠くなるようなことであり、どこまでやれるのかという不安がよぎりますが、当研究所の今後の重要な課題であり、取り組んでいかなければと思っています。

今後も、様々な分野の方々のご意見やご指導を頂き、当研究所のさらなる充実を図っていききたいと思います。

最後になりましたが、本書の発行にあたり、ご協力頂きました方々には心より御礼申し上げます。

1998年3月10日

矢作川研究編集委員

村山志郎・宮田昌和